

障害のある女性への権利向上と  
エンパワメントに関する  
アクセスプラネットの活動

2022年3月9日

ラクシミ・ネパール

# 自己紹介

ラクシミ・ネパール

- ▶ アクセスプラネット設立者、事務局長
- ▶ ジェンダーと障害の分野で活動
- ▶ 2017年 ダスキンアジア太平洋リーダー育成事業に参加  
19期生
- ▶ ダスキンの研修ではアクセシビリティ、教育、雇用に焦点をあてる
- ▶ 専門分野は女性の権利、テクノロジー、経済的エンパ  
ワースメント

# アクセスプラネットの紹介

- ▶ 若い女性障害者が主導
- ▶ 障害者全般、あるいは若い女性障害者に特化して、権利、エンパワメント、インクルージョンを促進する活動を行う。
- ▶ 2015年9月設立。テクノロジーとキャパシティビルディングを基盤に、ネパールの若い女性障害者のメインストリーム化を目指す。
- ▶ 若い女性障害者を対象に、質の高い教育、経済的エンパワメント、ウェルビーイング、リーダーシップに重点をおく。

## 活動目標

- ▶ テクノロジーを活用し、障害がある児童や青少年の教育の質を改善することに貢献。
- ▶ 職業カウンセリング、テクノロジーのスキル、ステークホルダーの意識や関心を高める活動を行い、障害がある若者や女性障害者の経済力を強化。
- ▶ 法律の知識、リーダーシップ、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルスの権利について研修を行い、女性障害者の権利を守る。
- ▶ スポーツによる女性障害者のエンパワーメント。

# テクノロジーを活用し、障害がある児童や青少年の教育の質を改善することに貢献



職業カウンセリング、テクノロジーのスキル、  
ステークホルダーの意識や関心を高める活動を行  
い、障害がある若者や女性障害者の経済力を  
強化



# 法律の知識、リーダーシップ、セクシュアル・リ プロダクティブ・ヘルスの権利について研修を行 い、女性障害者の権利を守る



# スポーツによる女性障害者のエンパワーメント





# 2019年パキスタン・フォーラムの成果報告

- ▶ 2019年、ダスキン研修のフォローアップとして開催されたパキスタン・フォーラムに参加。
- ▶ 多くの学びがあったが、特に、障害者のエンパワーメントのためにソーシャルビジネスを活用する方法について学んだ。
- ▶ パキスタンを訪問したことで、各国のダスキン研修生が障害エンパワーメントのリーダーとしてどのように重要な役割を果たしているのか深く理解できた。

# ネパールで視覚障害者エンパワーメント のイベント

- ▶ アドボカシー対話型プログラム「視覚障害がある若者の経済的権利の促進」  
(チャリティーから投資へ)
- ▶ 記事の発表：題「ネパールにおける全盲および視覚障害がある若者の雇用状況と今後について」
- ▶ パネルディスカッション「労働力の多様性：インクルーシブな社会発展の機会」
- ▶ 全盲および視覚障害がある若者の雇用問題に関する座談会
- ▶ 多くの雇用主や障害者権利活動家がプログラムに参加し、視覚障害がある若者のインクルーシブな雇用機会について意見を交換し、決意を確認し合いました。
- ▶ フォローアップとして、テクノロジーを基礎とした雇用に向けた技能開発研修を実施し、雇用に結びつくよう、民間企業で職場実習をする計画を立てる。

# 写真

## 「視覚障害がある若者の経済的権利の促進」 (チャリティーから投資へ)

2021年7月30日 (金)

参加者 (38名)



事務局：アクセスプラネット

共催：ネパール若手起業家フォーラム (NYEF)

後援：日本財団、日本障害者リハビリテーション協会 (JSRPD)

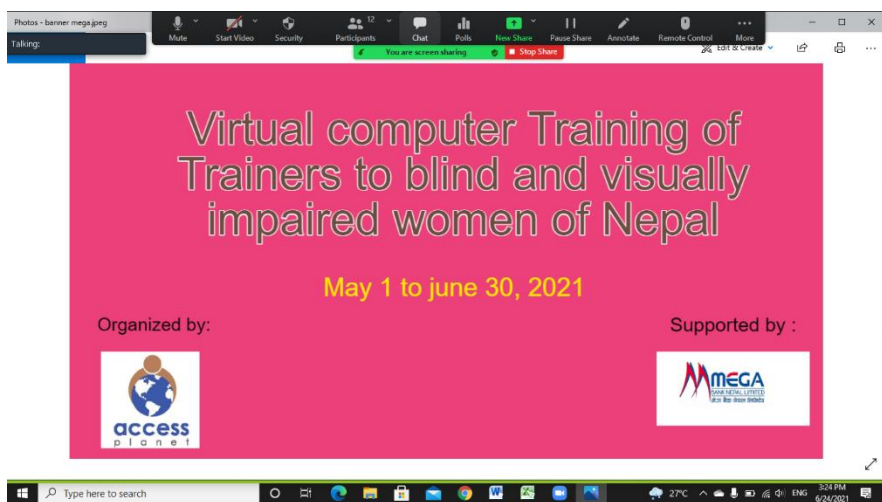
## 現在の企業との連携

- ▶ メガ銀行のCSR（企業の社会的責任）活動の支援を受けて、指導員になるためのオンラインパソコン研修を実施
- ▶ 障害がある若者および女性障害者の雇用促進にむけた対話型プログラムの実施
- ▶ 障害者雇用を支援するための一社一社への代表団派遣プログラム

# 写真

メガ銀行のCSR活動によるご支援

障害がある若者と女性障害者の雇用促進に向けた対話型プログラム



ネパールの全盲および視覚障害がある女性を対象とした指導員になるためのオンラインパソコン研修  
2021年5月1日～6月30日  
主催：アクセスプラネット 後援：メガ銀行

# 障害者雇用を支援するための 代表団派遣プログラム



# ソーシャルビジネスや企業家との 取り組みに関する将来計画

- ▶ 私立学校で障害に対する意識や関心を高め、支援を集める。
- ▶ 現在、実行しているデジタルアクセシビリティ研修は、今後、ウェブサイトや書類のアクセシビリティ検査を行うソーシャルビジネスにできる可能性がある。
- ▶ テクノロジーを用いて障害がある若者をエンパワーメントするために、CSR活動を通して企業家と連携する。

ありがとうございました